

# リフレッシュ・滋賀

第20号

連合滋賀・高退協会報

発行責任者:吉村眞明

編集責任者:山崎長栄

大津市松本2-10-6

電話:077-523-0500

## ご挨拶

連合滋賀高退協会長

吉村

眞明



明けましておめでとうございます。今年もまず健康第一に、力を合わせてがんばりましょう。昨年も痛ましい事件や、悲しい事故が続発しました。更に人としての良心を喪失した恥知らずな偽装事件も発覚いたしました。「水と安全はタダ」と誇れて、安心して暮らせた日本。恥を知り名誉を重んじた日本人であった筈なのに、嘆きたくなります。残念でならないのが、総選挙で小泉自民党を大勝させたことであり、政治にとって必要な思いやり、やさしさのかけらもない、冷酷無情な小泉首相は、その絶大な権力を背景に、定率減税の廃止をはじめ増税策を強行し、社会保障問題についても、高齢者を狙い撃ちするような痛みを押し付けてくることは、必定であります。しっかりと手を携えて、平和が約束され、心豊かな生活が保障される未来をめざしてたたかい抜きましよう。

労働組合の組織率が低下をつづけて、組織拡大の急務が叫ばれています。退職者連合にとっても組織拡大は最大の課題だと思います。いよいよ、六百八十万人とされる団塊世代の人たちが定年に達します。この人たちの仲間に入る努力を真剣にしなければ、退職者連合に明るい未来はないと思います。中央・地方通して、現退一致の大きな課題だと考えます。

今年こそ明るい日差しを望める年であることを祈念し、重ねて運動への一層のご協力を切望して、新年のあいさついたします。

## ご挨拶

連合滋賀会長

中村

憲市



新年明けましておめでとうございます。健やかに新たな年を迎えられたことと存じます。

年末・年始からの例年になく豪雪が物語る厳しい年ではこの思いはあるものの、今年こそ現役・退職者の皆さんにとっても、先行きの見える一年であってほしい、いやしなればとの想いは同じではないでしょうか。

申し遅れましたが、新たに会長として就任させて頂きました情報労連出身の中村憲市です。前下戸氏同様宜しくお願いいたします。私共に対し絶大なるご支援・ご協力を頂き、現退一致の活動に感謝と敬意を表します。

昨年、厳しいなかでの衆議院選挙ではありましたが、滋賀においては「川端・田島・三日月・奥村」の四名の議席を確保し、林参議院議員共々の体制維持をはかることが出来ました。重ねて皆様方に感謝申し上げます。しかしながら、小泉パフォーマンスにし

てやられた選挙でありました。この選挙、政権選択から政策選択での民主党の敗北と見方をすれば、政策論議がこれからの国会の焦点であり、皆様方の立場からの年金のあり方、医療制度、退職者健保のあり方等々、現退一致で社会保障制度全般について論議を頂き、運動を進めてまいりたいと考えています。イエスマンが三分の二を占める小泉政権、人気は力とばかり、私達働く者、年金生活者にしわ寄せを強いてくるのは確かであり、この五年間、先のビジョンは見えず、二極化が進み、子供への凶悪犯罪・構造偽造等々、強者・弱者が鮮明に、また競争体制のなかでのコスト意識等々、公正な社会の実現が遠のくように見えるのは私だけではないでしょうか。公平・公正な社会の実現、これが私達の目指す21世紀型社会であります。

ささやかに老いに逆らひ生き来たり

「こんちくしょう」と小さく言ひつつ（高退協 新日電OB会）

この高退協の会員さんの意気込みを意識しつつ、頑張る所存でございます。この一年よろしくお願い致します。

生産性をさらに高める豊かさか!!

それとも、福祉・平和・環境・地域との共生のなかでの豊かさか!!

私は後者を選択し、これからの連合運動に生かせれば幸いです。

## 医療保険の充実を求める二・八退職者連合中央総決起集会に参加して

滋賀高退協 副事務局長 吉川 浩次

厚生労働省は昨年一〇月一九日、医療制度構造改革試案を発表した。「試案」によれば、七五歳以上の後期高齢者を対象とする新たな高齢者医療制度を創設し、一人一人から保険料負担を求めるとともに、六四歳から七四歳の前期高齢者については従前の制度、国民健康保険等に加入することとしており、後期高齢者の保険料水準は、医療給付費の割合としているが、五年後を目途に引き上げを予定し、保険料は年金から天引きする。患者負担については、七五歳以上は一割ですが、七〇歳から七四歳は二割に引き上げられ、療養病床に入院する七〇歳以上の者の食費及び住居費負担直し（増額）、高額医療費の自己負担額の引き上げ等も行われる。今回出された医療費制度改革試案は、連合や退職者連合の要求には程遠く、罹病時の医療費を考えると生活不安は益々増大し、到底容認できる内容ではない。

退職者連合はこの「試案」に反対し、全国で一、三四万五、三五五名の署名集めに成功し、一二月八日、東京に於いて中央・地方代表四二七名が参加して「医療保険の充実を求める中央総決起集会」を開催した。午後一時、真柄会長の主催者代表挨拶に続き、来賓挨拶として、連合の古賀事務局長、民主党の仙谷衆議院議員、社民党の又市幹事長から異口同音に「次の通常国会での審議過程において徹底抗戦する」との決意表明があった後、UIゼンセンOB会、東京高退協、大阪高退協会代表の決意表明があり、集会アピールを満場一致で採択し、続く国会請願行動、国会議員要請行動に移った。

国会請願行動は、全員が衆議院第二議員会館に集結し、請願書を民主党の前原代表、社民党の福島党首に手渡した後、地方代表参加者四五名は、主として一組二名編成で一組七・八名の衆議院議員室を訪問し、国会における協力要請を行い、午後四時三〇分頃予定された集会日程を終了した。

なお、滋賀代表は、兵庫代表とともに 前原衆議院議員（京都）山井衆議院議員（京都）馬淵衆議院議員（奈良）長安衆議院議員（大阪）松本衆議院議員（兵・比）土肥衆議院議員（兵・比）市村衆議院議員（兵・比）の七名を訪問し要請を行った。



## 高退協大阪秋のハイキングに参加して

関電労組滋賀OB会 伊藤 茂

去る十月十九日、大阪城公園・周辺施設を会場に、連合近畿高退会恒例の「秋のハイキングin OSAKA」が秋晴れのもと開催されました。

今年は、二順目を迎え、しかも戦後節目の六十周年を迎えたこともあり集会講演・施設見学・ハイキング(場内の自由散策)とバラエティな内容でありました。当日は、近畿圏各地から約七百人(滋賀三十六名)が参加しましたが、久しぶりの仲間との出会いがあちらこちらにあり賑やかなムードでありました。

第2次世界大戦で大阪は、五十回を超える空襲があり、その実態等が展示された「ピース大阪」を全員で見学しました。展示では、死者・行方不明者約一万五千人の被害模様と市街地主要部廃墟の写真・遺品がありました。又、満州事変から第二次世界大戦終結までの十五年間の展示にも戦争の非人間性と悲惨さを肌で実感しました。

私の終戦は、国民小学校五年生の夏に迎えました。当時兄五人は陸海軍に従軍し、兄三男が昭和二十年一月にルソン島で戦死し、その実態は戦う武器・食物が無くどの様な形で死んだのかなあと思ひ涙しました。こう言った体験者も段々と少なくなってきました。次は、次の世代に語り・引継ぎをしなればと思つた有意義な行事で、私の子や孫三人にも是非体験の見学をさせたい。



## 滋賀県高齢者集會に参加して

農水省滋賀県退職者の会 森本 新一

連合滋賀高退協が主催する「滋賀高齢者集會」も、今年で回を重ねること九回を迎えるが参加者も年々増えてきていることは大変喜ばしいことで、それだけ会員の皆さんが、この集會に何かを期待されているのではないかとと思う。

昨年、守山ライズヴィル都賀山で「老いと健康」というテーマで、介護施設所長松田清子先生から約六〇分にわたって講演を聞く機会を得た。会場は一〇〇名を超える参加者でいっぱい、年齢も七〇歳半ばを超えておられるのではないかとと思われるが、

健康そのもの、とはいえ先生の講演が熱をおびるに従い、会場のあちこちで熱心に「メモ」する姿を見るにつけ、日常普段の健康管理が如何に大切なことであるかということであらためて認識させられた集會であつたと思う。

私自身、日頃の健康維持や暮らし方について、先生の講演と重ね合わせてみる時、あれこれと考え直すことが多く、今まで健康にはかなりの自信を持って過ごしてきたことが、自分独りよがりなうぬぼれであつたことを素直に反省しなければならぬことに気付いたことは大きな収穫であつたと思つてゐる。

戦後六〇年、お互いが「頑張ろう」を合い言葉に生きてきたが、年を重ねるに従い、身も心も、また、日常おかれてゐる立場も徐々に変化していくことを率直に感じながらも、これらの変化と、どう付き合ひながら、健康維持を図っていくのか、私たちが長寿社会を生き延びていく鍵はここにあるのではないか、ということを感じてゐる。しかし一方、私たち高齢者を取り巻く世界は最早や、厳しいという言葉は通用しなくなつた時代に直面してゐる。

年金、医療、介護など社会保障制度は崩壊寸前、正に断崖絶壁という状況の中にあるといつても過言ではないが、健康で明るい活力ある高齢者社会を作り出していく夢や理想だけは忘れないように頑張つていくことも、「老い」を防ぐ生き方ではないか。こんな思いを強く感じている今日、この頃である。

## 組織の近況報告

鉄道退職者の会滋賀地区本部 北川 冶太郎

十月二十四日、醒井水の駅において、役員、代議員等三十六名の出席を得て総会が開催されました。高齢者、年金生活者の苦難へのスタートの一年だったようです。核兵器廃絶を求める署名から、社会保障制度の充実を求める団体署名、医療保険制度の充実を求める署名と国会要請行動を重ね、所詮「蟬螂の斧」と言われようと、今後一層強化されるであろう年金課税強化に関わる介護保険料、国民保険料の負担増に対しても、全力で取り組むこととしました。

楽しい思い出は、親睦旅行です。大井川鉄道のSL・駿河路の旅ですが、近距離のためか、参加者が激減。バス二台の九十名弱での一泊旅行。家族同伴、遺族会員もあり、二割強が女性で一層賑やかになり、休憩毎に、あちこちで人の輪がで、行程が遅れがちになります。夜は一層賑やかになります。ご馳走もそこそこに座席を外れ、次々とテーブルが変わります。部屋へ帰つても修学旅行です。

さて、SLの旅は、懐かしい客車に乗って、駅弁食べて、トンネルに入れば慌てて窓を閉める。機関車はC11。殆どの人たちが蒸気機関車時代を知っている。まして、私のようにC11に勤務した経験者は、一層懐かしく眺め、手で触れてきました。しかし、蒸気機関車には、断熱材として、石綿が沢山使用されています。ブレーキのブロックにもアスベストが入っているようで、今、全会員対象で「健康診断受診申請書」が配布されていますが、高額なため、費用負担を求めて、またまた署名運動です。いつまで続くのか。